

## 環境デザイン学科・授業概要一覧

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的と到達目標（学修成果）				
授業の概要（内容）				
学科入門セミナー	選択	演習	1年次	1単位
[授業の目的] 学外見学、フィールドサーベイ、グループワーク等を通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 [到達目標] 学内外において、入学した学科毎に、学外見学、フィールドサーベイ、グループによる活動等を通じてその専門分野について考え、関心を深めるとともに、教員および学生同士の相互交流をはかる。				
環境デザインとはⅠ	必修	講義	1年次	2単位
[授業の目的] 環境デザインの構成を概観することにより、学習の全体像のなかで、専門科目や専門分野を位置づける力を養う授業を行う。 [到達目標] 専任教員のそれぞれの専門分野に関する講義を通じて、環境デザインという学問分野がどのような広がりを持つものかを理解できる。				
現代における都市・建築・ランドスケープを中心とするデザインの動向を、優れた事例を通して学ぶことで、この分野のデザインの特色と魅力の理解を図る。				
環境デザインとはⅡ	必修	講義	1年次	2単位
[授業の目的] 環境デザインの学問的な広がりを理解する。 複数の教員が授業を行うので、各教員の専門領域を知る。 [到達目標] 近現代建築、住宅設計のあり方、近代建築の保存と再生、空間構成、建築を表現するということ、建築設計、構造デザインなどについての知見を獲得できる。				
近現代の建築、住宅の設計、空間の構成、建築の表現、建築設計のあり方、構造デザインなど、さまざまな視点から環境デザインに関する講義を展開する。 環境デザインのさまざまな事例に触れるが、「環境デザインとはⅠ」と合わせて履修することによって、環境デザインに関する理解をより深めることができる。				
環境デザイン基礎演習Ⅰ	必修	演習	1年次	4単位
[授業の目的] 建築デザインに必須の、2次元、3次元表現の基礎技術を修得する。 [到達目標] 3次元立体空間を2次元に、あるいはスケールを変換して理解・表現できる。 製図・模型制作・コンピュータモデリングの基本的な手法を用いることができる。 上記の技術を適切に用いて簡単な空間作品を制作できる。				
環境や建築をデザインするとは、すなわち空間をデザインすることである。この授業は空間を理解・認識し表現する3つの手段、図面・模型・コンピュータモデリングの基礎を習得する。 さらに実際に表現対象を見学することにより、適切なスケール感を身に着け、図面・模型・コンピュータモデリングそれぞれの特性を理解し、2年次からはじまる実習課題に応用することを学ぶ。				
環境デザイン基礎演習Ⅱ	必修	演習	1年次	2単位
[授業の目的] 環境デザインを行うときに、建築とその周辺環境の情報を読み取り、適切に他者に伝える表現にまとめることは、デザイン根拠の明確化につながるため重要である。このため本授業では、建築とその周辺環境の情報の読み取り方法を理解し、さらに読み取った内容を的確にまとめて他者に伝えるための基本的な手法を身につける。 [到達目標] 身の回りの環境に関する情報を、実際の建築や町並みをはじめ、地図や地誌類などのさまざまな資料から読み取る方法を知る。 身の回りの環境に関する情報を、他者に伝えるための基礎的な手法を修得する。				
建物を写真や実測図により記録する方法、地図の種類とその読み取り方、地図を活用した情報伝達手法、地誌類をはじめとした資料による地域情報の読み取り方などについて、演習形式で学習する。				
建物のしくみ	必修	講義	1年次	2単位
[授業の目的] 建築を学習するにあたり、最も基礎的事項である建築構法を理解することにより、設計実習や構造力学など建築の専門授業のペースとなる知識を身につける。 [到達目標] ・建築の構造種別、架構形式の説明ができる。 ・木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造の建物について、その特徴を説明できる。 ・木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造の建物について、各部位の名称や施工方法の説明ができる。				
建築設計を学ぶにあたり、最も基礎的事項となる「建物のしくみ」（建築構法）について学習する。主に建物の骨となる「躯体」について、その考え方や形式および施工方法について学習し、建築に関する基礎的知識を習得する。				
CAD基礎演習	必修	演習	1年次	2単位
基本設計図書レベルの2次元製図を学び、次に3次元のオブジェクトを用いた設計の方法を習得する。				
コンピュータを用いた建築設計やインテリアデザインに必要な、製図、モデリング、プレゼンテーションといった基本的な諸技法を習得すると同時に、CADを活用する上で必要な諸概念について理解することを目標とする。				

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的と到達目標（学修成果）				
授業の概要（内容）				
<b>環境デザイン実習Ⅰ</b>	必修	実習	2年次	5単位
課題制作を通して、建築デザインおよびランドスケープデザインの基礎を学び、設計プロセスおよび図面と模型による設計表現方法の基本を習得する。				
課題Aでは、都心における市民のためのコミュニティ施設の設計を通して、建築デザインの基礎を学ぶとともに、建築設計のプロセスを理解する。 課題Bでは、都市広場を設計することにより、ランドスケープデザインの基礎を学ぶとともに、ランドスケープを設計するプロセスを理解する。				
<b>環境デザイン実習Ⅱ</b>	必修	実習	2年次	5単位
多様な対象についてのデザイン力を獲得し、それを図面や模型で表現、伝達する方法と技術を身につける。				
課題Aでは、小規模住宅の設計を通して、その建築計画の基礎と合理的に形態や材料、構造などを判断するデザイン力を養う。 課題Bでは、まちの一定範囲を対象として、地域の社会的課題の解決につながるような、複数の建物と周辺空間のリノベーションを提案し、その図面や模型による表現方法を学ぶ。				
<b>環境デザイン実習Ⅲ</b>	必修	実習	3年次	5単位
[授業の目的] 規模が大きい複合型の施設を設計するための建築計画に基づく合理的な形態や材料、構造などを判断するデザイン力を獲得し、それを図面や模型で表現、伝達する方法と技術を身につける。 [到達目標] 複合型施設の建築計画のあり方を理解することができる。 新しい都市居住に関する考え方を深めることができる。 共同で設計にあたる能力を身につけることができる。				
課題Aでは図書館・美術館などの公共施設の設計を行い、特種建築物としての建築計画の理解を深めるとともに、地域に根ざし地域に開かれた施設のあり方を提案する。 課題Bでは、都市居住の新たな意味やあり方を考え、地域特性を活かした都市複合施設をデザインする。 課題Cでは即日設計を行い、短時間でデザインをまとめる力を養う。				
<b>環境デザインプロジェクトA</b>	必修	演習	4年次	2単位
[授業の目的] 各担当教員の専門性を踏まえた、具体的なプロジェクトを通して、より高度なデザイン能力を身につける。 [到達目標] プロジェクトを通じて、リサーチに基づく課題や企画・計画の提案を分析的に説明できるようになる。社会的実践への構想力を広げることができるようになる。				
環境デザイン学科4年生を対象に、各自の専門性を高めるため、卒業研究に加えて本演習を必修とする。環境デザインプロジェクトとして、リノベーション、建築、ランドスケープ、まちづくりなどの分野の特性を考慮した複数の演習課題を提供する。いずれも、フィールドワークや共同作業におけるディスカッションによって実践的に実施し、プロジェクト成果をプレゼンテーションする。 履修者は提供する複数の課題の中から1つを選択し、必修科目の「環境デザインプロジェクトA」とする。 なお、演習課題の選択にあたっては、履修者の所属ゼミ教員が担当する演習課題とは別の課題を選ぶこともできる。環境デザインにおける専門性は有機的に連関し、総合的な判断や構想力が必要とされることから、各課題を通じて、研究室の専門分野を超えて視野を広げることを意図している。				
<b>リノベーション総合実習</b>	選択必修	実習	3年次	5単位
建築のリノベーションに関する具体的な知識と設計手法を身につけるとともに、それを通して、建築と都市や地域社会との関係を考慮したプログラムやデザインを組み立てる構想力も養う。				
建築物のリノベーションの専門性を踏まえた調査・分析、計画・設計の学習を深めるとともに、卒業研究に向けた総合的なデザイン力を養う。				
<b>建築総合実習</b>	選択必修	実習	3年次	5単位
[授業の目的] 広い視野の下に都市や地域社会との関係を考慮したプログラムとデザインを組み立てる能力を身につける。 [到達目標] 敷地の都市的コンテクストを読解し、現代社会に要求される複合的な建築プログラムを構想できる。 構造や素材、建築論など建築の内発的なデザイン原理を探究する。 計画案を適切な図面・模型でプレゼンテーションできる。				
建築の専門性を踏まえた調査・分析、計画・設計の学習を深めるとともに、卒業研究に向けた総合的なデザイン力を養う。				
<b>ランドスケープ総合実習</b>	選択必修	実習	3年次	5単位
[授業の目的] ランドスケープにおける総合的なデザイン実習である。 [到達目標] 広い視野の下に都市や地域社会との関係を考慮したプログラムとデザインを組み立てる能力を身につける。				
ランドスケーププランニング及びランドスケープデザインの専門性を踏まえた調査・分析、計画・設計の学習を深めるとともに、卒業研究に向けた総合的なデザイン力を養う。				

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的と到達目標（学修成果）				
授業の概要（内容）				
まちづくり総合実習	選択必修	実習	3年次	5単位
[授業の目的] 都市環境における総合的なデザイン実習である。 [到達目標] リサーチによる地域分析および分析にもとづく地域の課題への気づきができるようになる。 広い視野の下に都市や地域社会との関係を考慮したプログラムとデザインを組み立てる能力を身につける。				
アーバンデザインと地域計画の専門性を踏まえ、フィールドワークによる地域の調査・分析から課題設定を行う。リサーチから得られた課題と空間デザインをつなぐプランニングにもとづきプログラムを検討し、設定した課題に対する空間デザインを提案する。計画・設計の学習を深めるとともに、卒業研究に向けた総合的なデザイン力を養う。				
現代の建築	選択	講義	1年次	2単位
現代建築の特色と成立した背景を学び、総合的に理解する。				
現代建築の代表的な作品を個別に詳しく見ることにより、現代建築の見方や特性を理解する。次いで、20世紀以降の現代建築に直結する建築史を学び、その延長にある現代建築の動向を歴史的文脈においてとらえ説明できるようになる。				
ランドスケープデザインの歴史	選択	講義	1年次	2単位
[授業の目的] ランドスケープデザインの近代史について、映像を中心に学習する。 [到達目標] それぞれの年代におけるランドスケープ作品の空気感を直感的に習得する。				
公園・広場および庭園の空間を対象としたランドスケープデザインの歴史的な意味や社会的な役割について、建築やアートなどの時代背景と共に、その時系列的な探究によってアプローチする。このことによって、ランドスケープデザインの基礎知識の習得および建築や都市計画、インテリア、アートなどの他領域との関係性や協働性を考えるきっかけづくりとなることを目指す。				
都市の歴史と住まいのかたち	選択	講義	1年次	2単位
[授業の目的] 都市の歴史と住宅に関する基礎的知識を習得する。 [到達目標] 都市を構成する建築の基本である住宅についての知識を学ぶことにより、都市と建築の関係を理解できるようになる。				
人は住む「場所」をどのように選び、その環境・自然や歴史文化とどのように呼応しながら「住まい」をつくり、「都市」「集落」を形成してきたのか。日本や世界の都市や集落の歴史をその環境や地域文化などの背景とともに学び、その空間構成の基礎となる「住まい」の多様性と地域性を生活文化や地域環境から解説する。				
建築構造入門	選択	講義	2年次	2単位
[授業の目的] 建築の設計を行うにあたり不可欠な構造についての知識を身につけ、構造力学の基礎を学び計算方法を習得し、建物に流れる力について理解する。 [到達目標] ・建物に働く荷重について説明することができる。 ・支点反力の算出ができる。 ・断面力の概念について説明することができる。				
建築構築デザインの基礎となる構造力学を学ぶ。静定構造の力学を学ぶことにより、構造の基本的考え方や計算方法を習得する。				
CAD応用演習	選択	演習	2年次	2単位
異なるCADソフトをグラフィック系のソフトと共に用いてプレゼンテーションボードの作成を繰り返し行うことで、検討及び表現両方の実践に必要な技術を習得する。				
2つの建築作品を課題としてCAD・BIMソフトだけでなく複数のレンダラやツールを積極的に用いて多様な技術を習得するとともにプレゼンテーションボードとして表現する。また、自分がこれまでに設計した作品のブラッシュアップを行い、効果的な表現を行うために適切な手法の選択ができるよう適宜アドバイスを行う。				
建築空間のデザイン	選択	講義	2年次	2単位
[授業の目的] 建築空間を成立させているデザイン原理の基礎的理解とその方法論を習得する。 [到達目標] 現代の代表的ビルディングタイプの建築計画の変遷を理解する。 建築空間を成立させているデザイン原理の基礎的理解を深め、その方法論を建築設計に応用できるようになる				
現代における代表的なビルディングタイプにおける建築計画の変遷をたどりながら、建築空間を成立させているデザイン原理の基礎的理解とその方法論を習得する。				
ランドスケープ空間のデザイン	選択	講義	2年次	2単位
[授業の目的] アーバン・ランドスケープ空間を構成する要素や特性についての理解を図る。 [到達目標] デザイン実習における基礎知識の習得と実践能力を身につける。				
道路や広場、空地などの都市空間および公園やオフィス、住宅などのランドスケープ空間を対象として、それらの空間を構成する要素や特性について、部位や項目別に解説を行う。デザイン実習における総合化（デザインの実践）を前提としたアーバン・ランドスケープ空間のデザインの基礎知識を授業する。				



科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的と到達目標（学修成果）				
授業の概要（内容）				
日本建築の歴史	選択	講義	2年次	2単位
[授業の目的] 環境をデザインするときに、地域の歴史文化的アイデンティティーを適切に継承する力を身につけるために、本授業では、日本の伝統的な建築や町並みの基礎的な特徴を知り、それらの成り立ち及び変遷について理解する。 [到達目標] 日本の伝統的な建築や町並みの特徴が理解できる。 身の回りの建築や町並みの歴史的特徴に対する観察力が身につく。				
この授業では、古代から近代にわたる日本の歴史的な建築（寺社建築、住宅、城郭、近代建築等）を中心に、インテリアから都市計画まで広範な領域を対象として、基礎的な特徴や、成り立ち及び変遷について、解説する。				
西洋建築の歴史	選択	講義	2年次	2単位
[授業の目的] 西洋史を理解しながら、古代から近代に至る西洋（ヨーロッパ）建築の歴史を概観して理解する。 [到達目標] 歴史的な視点から、現代建築のデザインを考えることができるようになる。 自らの設計において、過去の事例を参照しながら設計することができるようになる。				
毎回の配布資料と大型スクリーンに映す写真等を持ちいて、古代～中世～近世～近代へと動いてきた西洋建築の歴史を検証する。過去の建築に対する造詣の深さは、環境デザイン実習において課される設計課題に取り組むときのてがかりとなる。				
力の流れと安全	選択	講義	2年次	2単位
[授業の目的] 「建築構造入門」に引き続き、構造力学の基礎を学び計算方法を習得し、建築構造設計に関する知識を深める。 [到達目標] ・静定構造物にはたらく断面力の算出ができる。 ・静定トラスにはたらく軸力の算出ができる。 ・断面2次モーメント等の断面パラメータおよび応力度の算出ができる。 ・不静定構造物についての基本的な考え方を説明できる。				
「建築構造入門」に続き、建築構造力学の基礎を学ぶ。静定構造物に関しては、断面力や応力度の算出方法を習得し、不静定構造物についても基礎的な計算方法についての考え方を学習する。				
建築と熱・光・空気のデザイン	選択	講義	2年次	2単位
熱、光、空気の物理的性状を理解するとともに、事例を通じその計画手法を学び、建築設計における環境計画に生かすことができるようになる。				
建築とその周辺環境を形成する環境要素のうち主に熱、光、空気の物理的性状について学ぶ。そして自然・人間・建築の良好な関係をつくり、高い快適性や健康性を獲得しながら省エネルギーに寄与するパッシブデザインについて、実際の設計事例を交え、建築設計に生かす方法を考える。				
福祉住環境論	選択	講義	2年次	2単位
わが国の社会の高齢化は急速に進展しており、高齢者のみ世帯や高齢者独居世帯の数が増加するなど家族構造も変化している。「住まいは生活の器」と言われるように住居は我々が生きていく上で必要不可欠なものであり、高齢になったり障害があっても、快適な暮らしが送れるように住環境をデザインすることはとても重要である。 そこで本講義では、これからの住環境の設計・デザインに必要な医療、福祉、工学に関する幅広い知識や技術を身につけることを目的としている。 なお、「福祉住環境コーディネーター2級」の検定試験合格を目指すことも可能である。				
本講義では、これからの住環境整備に必要となる高齢者や障害のある人の生活や心身の特性、医療・保健・福祉・建築などの幅広い知識を学習する。特に福祉住環境整備の対象者（クライアント）となる高齢者・障害のある人の心身特性の理解や福祉制度の理解は福祉住環境整備では必要不可欠であるので、時間を割いてわかりやすく解説する。また、福祉住環境整備に関する整備手法や福祉用具に関する解説も、スライドで写真等の事例を示しながら行う。福祉住環境整備はこれまで学んできた建築やデザインの知識や技術を、具体的に適用することが求められる分野である。知識や技術はそれをどのように活用するかによって人や社会に良い影響も悪い影響も与えうる。また技術によって障害をなくすこともできる。デザイナーとしての倫理やその役割についても本講義を通じて考えてもらいたい。				
都市空間のデザイン	選択	講義	2年次	2単位
[授業の目的] 都市空間を解説し、具体的なデザインに結びつけるための基礎的な思考力を身につける。 [到達目標] ・都市環境の構成要素と、人間による認識のしくみを説明できる。 ・いくつかの都市空間の構成手法を理解し、デザインに応用できる。 ・都市の解説に必要な考え方を身につけ、調査分析できるようになる。				
都市空間のデザインに関わるいくつかの基礎的な概念について講義する。第一部では都市環境の認識に関する諸概念について、第二部では都市デザインの方法について、そして第三部では世界の主要都市を対象としてその構造と形成の要因について考える。受講者には都市探検（フィールドワーク）を行うことが義務づけられ、その報告会を2回に分けて行う。				

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的と到達目標（学修成果）				
授業の概要（内容）				
インテリア空間のデザイン	選択	講義	2年次	2単位
[授業の目的] 建築全体の表現とインテリアの関係性を理解する。 インテリア独自の建築的エレメントのデザイン方法論を学ぶ、 [到達目標] 建築史上の作品を通して、近代における室内空間の意義を理解する。 ビルディング・タイプによるインテリア空間の特性や、用途・部位により必要とされるエレメントについて理解する。				
実際の建築デザインでは、内部空間と外部空間を別に扱う必然性はない。家具配置からランドスケープまで、一貫したデザインコンセプトが求められる。室内空間は最も身近な日常空間であり、より身体スケールに沿ったデザインが重要である。その一方で近年は、既存の建物の躯体を活かして他用途へ転用するコンバージョンという手法も多く見られるようになった。 この授業では、インテリア空間を成立させる「個人」という概念の成立から始め、それぞれの時代を先駆けた建築家やデザイナーの作品を通して、インテリア空間のデザイン方法論を学ぶ。				
建築空間のプランニング	選択	講義	2年次	2単位
[授業の目的] 建築計画の基礎的な方法論を習得した上で、現代における人々の活動をベースにした実際の建築計画の背景、類型、及びその変遷を理解する。 [到達目標] 建築計画の基礎を事例を通して身につける。 建築計画の基礎を実践的課題として建築設計に応用できるようになる。				
建築計画（プレ・デザイン）に関して、活動→空間→建築→都市という関係のなかで基礎的な事例を理解し、その方法論を習得する。建築設計における実務経験のある教員が、実践的な建築設計を前提とした建築計画のプランニングを取り扱う。				
構造デザインの実践手法	選択	講義	3年次	2単位
[授業の目的] 様々な設計の実例を見ることで、建築設計における構造デザインの役割や手法、構造力学がどのように建築設計に行かせていくかを習得する。 [到達目標] ・建築構造デザインの概念について説明することができる。 ・木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造の建築について、その構造システムの特性を説明できる。 ・建築家と構造デザイナーのパートナーシップに関する実例を述べるができる。				
これまで学習してきた力学の知識をベースに実務的な構造設計および構造デザインについての知識を習得する。実例を通してどのような考え方で建築の構造が決定するのか、構造設計が建築全体のデザインにどのような影響を及ぼすか等を学習する。				
構造・材料ワークショップ	選択	演習	3年次	2単位
[授業の目的] 建築の構造材料の特性を座学と実験によって学ぶことにより、建築の設計において適材適所の材料の使用方法について理解する。 [到達目標] ・木、鉄、コンクリートの建築材料についてその特性を説明することができる。 ・コンクリートの配合方法や力学試験の方法を説明することができる。				
建築材料について、力学実験を行いながらその特性等を学習する。また設計者が材料をどのように捉え、設計に組み込んでいくのかを実例を通して学習する。				
環境測定ワークショップ	選択	演習	3年次	2単位
熱、光、空気について体感と理論をつなげて理解していくプロセスを身につけ、建築の環境設計に生かすことができるようになる。				
熱、光、空気に関する屋内外の現象について、各種の測定機器を用いその物理量測定を行う。またコンピュータシミュレーションを用いた解析演習も加え、自らの感覚とこれらのデータを照らし、具体的に建築設計に生かす方法を考える。				
照明デザイン	選択	講義	3年次	2単位
照明デザインを実践する知識として、照度・色温度・演色性・輝度などの用語を設計過程で適宜使うことができる。さらにインテリアデザイン、環境・建築デザインなどの空間系のデザインと照明デザインを総合的に設計できるようになる。プロダクトデザイン・クラフトデザインなどのモノ系のデザインでは、素材・構造・仕上げなどに必要な知識をも習得する。				
本講義では照明デザインに必要な基礎知識として、照明と光・生理・用語・光源について解説する。つづいて、照明器具と照明手法及び照明の歴史を学習する。照明デザインの事例として住宅・施設・環境と空間別に解説し、さらに心理・イベントなど行為と照明との関係にも踏み込んでいく。照明メーカーのデザイン部門で業務していた経験を活かして、照明デザインの基本的な知識と手法等、近年の施工例を解説しながら、具体的に講義する。				
ランドスケープのプランニング	選択	講義	3年次	2単位
都市及び自然の広域的なプランニングとデザインに関する基礎知識を身につける。また、現代の土地利用計画におけるランドスケープの役割や戦略性を理解する。				
ランドスケープを、人を取り巻く建築・都市・自然などの総合的な環境及びそれらが生み出す景観として広義に捉え、多様な場所・局面におけるランドスケープのプランニングとデザインに関する基礎的な知識と手法、技術を学ぶ。なお授業ではグループワーク形式の課題も実施する。課題の中において調査学習を行うことで世界各地で展開されているランドスケーププランニングの実例への理解を深めるとともに、プレゼンテーションの技術も習得する。				

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的と到達目標（学修成果）				
授業の概要（内容）				
リノベーションの理論と実践	選択	講義	3年次	2単位
今日の課題である既存建築ストックを活用することについてのさまざまな背景を理解した上で、そのリノベーションを行なうために必要な論理と設計手法を学習する。				
建築からまちや地域までのリノベーションについて、その考え方の基本的枠組みから企画や設計の具体的方法までを、多くの事例を通して具体的・実践的に説き起こす。				
施工の技術	選択	講義	3年次	2単位
建築施工について、総合的な基礎知識を学ぶことができる。				
建築士やインテリアプランナーをはじめ、将来的に建築に関わるために必要となる建築生産のしくみと施工の基礎知識を学ぶ。期間中に体験学習を目的とした建設作業所見学を実施することがある。				
環境制御の技術	選択	講義	3年次	2単位
建築の環境設備設計に関する幅広い知識や、高効率で環境負荷の少ない設計手法について学び、建築の環境設備設計に生かすことができるようになる				
現代の都市には多岐に渡る建築用途が存在する。それぞれに要求の異なる機能、快適性、安全性などを確保するためには高度な環境制御（設備システム）が不可欠であるが、同時に地球環境負荷の少ない設計も求められる。実際の設計事例を交え、これらについて習得する。（環境制御設計例の中で、学外見学を実施することがある）				
建築と法規	選択	講義	3年次	1単位
[授業の目的] 実務設計では欠かすことのできない建築法規の概要を理解し、とくにたいせつな項目については、具体的な計算ができるようになる。 [到達目標] 用途地域について理解できる。 2項道路と敷地形状に関する留意事項を学ぶことができる。 建築面積・延べ面積の計算において留意すべき点を学ぶことができる。 採光面積と採光斜線を理解することができる。 高さ制限を理解することができる。				
建築基準法および建築基準法施行令を中心として建築法規を講義する。 用途地域・居室とするための条件・道路幅員と法規制・建築面積と建ぺい率・延べ面積と容積率・高さ制限に関して、とくに詳しく解説する。				
まちづくりのしくみ	選択	講義	3年次	1単位
[授業の目的] 開発整備の手法や事業・制度の実践を学ぶことにより、都市計画・地域整備の実際について理解する。 [到達目標] 地域づくりについて実践的に説明する力をつけ、建築と都市をつなぐ視点を身につける。 地域整備における公共の役割を理解できるようになる				
地域整備における計画・制度・しくみ・事業について具体的事例にもとづき解説する。神戸市と連携し、計画・整備事業の成果と課題および新しい都市課題について、都市計画と地域整備の実践の解説から学ぶ。				
都市空間のプランニング	選択	講義	3年次	2単位
[授業の目的] アーバンデザインにおける基礎となる地域空間の成り立ちとその地域特性を理解し、地域性にもとづくプランニングの基礎を習得する。 [到達目標] 地域の見方を学ぶことにより、リサーチを通じて地域空間を理解し説明できるようになる。 プランニングにおける公共性や都市計画の考え方と都市空間のデザインとを関連づけることができるようになる。				
地域空間の成り立ちを歴史・生業・生活からとらえる地域の見方について解説し、地域の特性や課題を把握する。これにもとづきフィールドワークにより地域を説明することを試行してみる。空間デザインの観点から都市計画の基礎について解説し、地域空間の持続と変化をマネジメントするための計画の考え方と手法について学ぶ。				
環境デザインプロジェクトB	選択	演習	4年次	2単位
[授業の目的] 各担当教員の専門性を踏まえた、具体的なプロジェクトを通して、より高度なデザイン能力を身につける。 [到達目標] プロジェクトを通じて課題や企画・計画の提案を分析的に説明できるようになる 社会的実践への構想力を広げることができるようになる				
環境デザイン学科4年生を対象に、各自の専門性を高めることを目的とする。環境デザインプロジェクトとして、リノベーション、建築、ランドスケープ、まちづくりなどの分野の特性を考慮した複数の演習課題を提供する。いずれも、フィールドワークや共同作業におけるディスカッションによって実践的に課題を実施し、プロジェクト成果のプレゼンテーションを行う。 提供される課題の一つを選択して必修科目の「環境デザインプロジェクトA」とするが、意欲的な学生に対しては複数課題の履修を認めている。その場合、2つの課題に取り組む者は「環境デザインプロジェクトA」に加え「環境デザインプロジェクトB」を、3つの課題に取り組む者はさらに「環境デザインプロジェクトC」を履修登録する必要がある。科目名と課題は対応していないので、いずれか1つの課題に合格した者に「環境デザインプロジェクトA」の単位を与え、2課題合格者には「環境デザインプロジェクトA」と「B」、3課題合格者には「環境デザインプロジェクトA」と「B」と「C」に、単位を与える。 環境デザインにおける専門性は有機的に関連し、総合的な判断や構想力が必要とされることから、各課題を通じて、研究室の専門分野を超えて視野を広げることを意図している。				



科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的と到達目標（学修成果）				
授業の概要（内容）				
環境デザインプロジェクトC	選択	演習	4年次	2単位
<p>[授業の目的] 各担当教員の専門性を踏まえた、具体的なプロジェクトを通して、より高度なデザイン能力を身につける。</p> <p>[到達目標] プロジェクトを通じて課題や企画・計画の提案を分析的に説明できるようになる 社会的実践への構想力を広げることができるようになる</p> <p>環境デザイン学科4年生を対象に、各自の専門性を高めることを目的とする。環境デザインプロジェクトとして、リノベーション、建築、ランドスケープ、まちづくりなどの分野の特性を考慮した複数の演習課題を提供する。いずれも、フィールドワークや共同作業におけるディスカッションによって実践的に実施し、プロジェクト成果をプレゼンテーションする。 提供される課題の一つを選択して必修科目の「環境デザインプロジェクトA」とするが、意欲的な学生に対しては複数課題の履修を認めている。その場合、2つの課題に取り組む者は「環境デザインプロジェクトA」に加え「環境デザインプロジェクトB」を、3つの課題に取り組む者はさらに「環境デザインプロジェクトC」を履修登録する必要がある。科目名と課題は対応していないので、いずれか1つの課題に合格した者に「環境デザインプロジェクトA」の単位を与え、2課題合格者には「環境デザインプロジェクトA」と「B」、3課題合格者には「環境デザインプロジェクトA」と「B」と「C」に、単位を与える。 環境デザインにおける専門性は有機的に関連し、総合的な判断や構想力が必要とされることから、各課題を通じて、研究室の専門分野を超えて視野を広げることを意図している。</p>				
環境デザイン特別講義A・B・C・D	選択	講義	1年次	1単位
<p>[授業の目的] 環境デザインの種類専門領域における先進的な取り組み事例を知ることで、現代社会における環境デザインの課題と可能性を理解する。</p> <p>[到達目標] 多様な先進事例から環境デザインに関わる知見を得ることにより、空間デザインの構想力を高めることができる</p> <p>学外から特別講師を招き講義を行う。特別講師は、各界で活躍する第一人者で、半期で計4名を予定している。環境デザイン学科の学生が主な対象であるが、他学科の学生の履修も推奨する。</p>				
卒業研究	必修	実習	4年次	10単位
<p>[授業の目的] 卒業研究では、卒業論文及び卒業制作に取り組むことを通して、現代社会における環境デザインの課題を自らの力で発見・設定し、それらの課題について分析と考察を行い、論理的思考に基づき構想し、解決方法の提案を展開する。</p> <p>[到達目標] こうしたリサーチとデザインをまとめるなかで、研究およびデザイン提案を文章や図面・模型等を用いて的確に表現できる力を養う。</p> <p>卒業研究では「卒業論文」と「卒業制作」を行う。卒業論文では、論文を組み立てる論理的思考と合理的研究方法を修得する。卒業制作では、現代の都市や社会への問題意識に基づき環境デザインとしての提案を表現することを学ぶ。 卒業研究は、学生が指導教員を選び、そのゼミ指導のもとで進める。卒業論文と卒業制作とは、基本的には独立しているが、両方のテーマに関連性を持たせて取り組むことも可能である。 なお、卒業論文・卒業制作は、個人で行うことを基本とするが、共同で行うことが望ましいと思われる明確な理由がある場合には、共同で行うことも認められる。共同の場合は、予め申告して承認を得ること。論文・制作とも、それぞれの役割・分担を明確にすること。</p>				